

会 議 報 告

区 分	内 容
議 題	前橋市社会福祉審議会 第1回地域福祉専門分科会
日 時	令和5年2月27日(月) 15時00分～16時25分
場 所	前橋市総合福祉会館 第1会議室
出 席 者	全員出席 傍聴人なし
開 催 趣 旨	まえばし福祉のまちづくり計画【第2次前橋市地域福祉計画・地域福祉活動計画(後期計画)】の令和3年度の取組報告と推進指標における進捗報告を行い、分科会委員より意見をもらい各取り組みへの反映を図る。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ●計画の進捗報告について、後期計画書P99に記載の評価と検証から、推進指標を使った実績報告(計画策定時と直近値の比較、関係する事業の具体的な取り組み)と分科会委員より意見をもらい事業担当課へ意見を持ち帰る形に変更することを分科会委員より了承を得た。 ●分科会委員より出た意見を事業担当課へ戻し、各取り組みへの反映を図る。 ●令和5年3月20日までに分科会委員より追加意見(計画のそれぞれの取り組みについて、「内容について確認したいこと」、「見直しを検討した方がよいこと」など)をもらう。
審議会の 主な発言内容	<p>【専門分科会長あいさつ】</p> <p>塩崎会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お顔を見ながら会議ができると意見が言いやすいし、人と人が繋がれると思う。コロナ禍で人と人が繋がれなかったが、これからはもっと人と人が繋がらないと「よい前橋」にならないのではないかと思う。 ・いろんな立場の委員さんがいるので、それぞれの立場で意見をいただいて前橋の一步前進のためにご尽力いただけたらと思う。 <p>【地域福祉専門分科会の概要について】</p> <p>(事務局) 細井副参事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前橋市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の概要について資料をもとに説明した。 <p>塩崎会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年3月までが任期と短い期間の中で、地域福祉専門分科会が今回初めて開催された。 ・そのため、本会議は委員さんが意見を言える有効な場と捉えていただき、1人1回は意見をいただければと思う。

【まえばし福祉のまちづくり計画について】

(事務局) 細井副参事

- ・まえばし福祉のまちづくり計画について、計画冊子・事業評価シート・推進指標をもとに説明した。
- ・本分科会は、推進指標で策定時と直近を比較し、どこまで伸びたかと取り組みの結果を伝え、各委員さんから数値に対してのご意見や指標を上げるにはこういう取り組みをしたほうが良いのではないかなど意見をもらい、担当課へ持ち帰り次の取り組みへ活かしていくという内容で進めていきたい。
- ・つまりは、後期計画のP99に記載の「評価と検証」から、実績の報告をさせてもらい、併せて委員さんから意見をいただく、そしてその意見を事業担当課へ持ち帰り、いかに取り組みに反映させるかというサイクルに変更することとする。
- ・推進指標について、策定時と直近値の比較では、17指標のうち、上がったのが11指標、変わらないが1指標、下がったのが3指標であった。事業評価シートに担当課の取り組みに対しての課題が記載してあるので、事業評価シートもご覧になってアドバイスや意見をいただき、それらを次の取り組みに反映、繋げていくこととする。

塩崎会長

- ・基本的には、A3資料の推進指標を見て、細かいところは事業評価シートを見て意見を言っていたのが良いということである。委員さんそれぞれの関係分野からご意見をいただければと思う。
- ・廣瀬委員さん、保護司会などの活動でいろいろされているが、コロナ禍でできなくなったものもあるが、「これはやったほうがいいよ。」というあたりのところをお伝えいただければと思う。

廣瀬委員

- ・推進指標のNo.11 法務省の関係ですが、地域のみなさんと共にという前提がある。地域のみなさんとの連携、学校との連携、お互いに情報交換をするのが前提ということです。
- ・しかし、コロナで空白の期間が生じたことで、再開された時にどうなるのかということをお心配している。
- ・イベントも経費がかかるので少しずつ見直しをしながら行っていく必要があると思う。みなさんと打合せをして効果的なものを探していきたい。

塩崎会長

- ・「社明パレード」や「のびゆくこどものつどい」は毎年すべての地域でやっていた。
- ・中止になっていたものが必要になった時に、「勝手にやってください。」では

できないだろうというのが廣瀬委員さんの意見だと思う。事前の調整や連絡を市や社協などが中継役として関わってもらえるとやりやすくなると思う。

- ・コロナでストップしていたけど絶対必要だから再開したいという事業が他にもあると思う。黒澤委員さんどうですか。

黒澤委員

- ・「介護予防サポーター」と「健康寿命の伸び」というところでは、健康寿命の数値がコロナ禍の影響から事業の中止あるいは減少にもかかわらず、健康寿命の数値が伸びてきたということは、関係する取組をしっかりと取り組んでいる結果だと思う。また、介護予防に関しても、いろいろな取り組みや活動（ピンシヤンとか）をしてフレイルを予防しなくてはならないわけで、のちには、介護予防につながる。
- ・健康寿命をどんどん延ばすことによって、「地域共生社会」が実現できると考えられる。
- ・住みやすい環境で過ごせるかというところが一番いい生活スタイルであるということから、ぜひこの指標を伸ばしていくのが一番良いと思う。
- ・推進指標のNo.8で認知症こどもサポーター養成講座（オンライン）の開催は、非常によい取り組みだと思う。高齢者施設も介護福祉士が不足している中でいかに介護福祉士を育てていくかということで、小中高単位を対象に我々のやっている事業をいかに宣伝し将来に繋げていくかを活動範囲としてやっている。
- ・「なるべく早い段階で認知症はこうなんだ」、「こういう行動が大変なんだ」、「見守り強化をしなければならぬ」、「地域においてそういう方の生活を見守っていきましょう」という考えを子どもの時から植え付けられるような勉強をしてもらうことで明るい社会がおのずと作られるのではないかと思う。ぜひこういった子どもさんのサポーター育成という部分の橋渡しをしていただければと思う。

塩崎会長

- ・No.2とNo.8についてご意見をもらった。「こういう事業は必要なんだ。」と委員さんから意見を言ってもらおうと社会福祉課から担当課へつないでもらえる。
- ・認知症を小中学生のうちから知ってもらうのは貴重な機会となる。
- ・去年、一昨年と学校に外部の人を入れてはいけなかったが、これからは地域と繋がらないと学校行事もできないのではないかと思うと、地域・サポーターの人にも協力してもらい子ども達に地域の状況を知らせてもらおうとより良いのではないかと思う。
- ・高橋委員さん、手話奉仕員についてどうか。

高橋委員

- ・障害にもいろいろある。（視覚、聴覚、肢体、内部障害など）

- ・12月には、障害者の絵を飾ったり、手話・車イスの体験会や好評のぐんまちゃんところとんも参加した「みんなのフェスタ」を第2コミセンで盛況のうちに開催した。
- ・窓口には言葉を伝えられる表（聴覚の障害者や知的障害者が話をする時に使う）があり、少しずつ改善されている。
- ・ボランティアの養成（車椅子を押す、おつかい、点訳）をお願いしたい。足が悪くて引きこもりになってしまう、車椅子で外に出て散歩をしてもらうなどのボランティアを養成してもらいたい。

塩崎会長

- ・体験者としての意見は大切である。
- ・点訳や手話だけでなく肢体障害や知的障害に対する行政側の窓口の支援やボランティアが大切である。
- ・手話奉仕員養成講座の受講数が問題なのか、受講数よりも、実際にどのくらい手伝ってくれているかというようなことが見えると、すごく助かるなどということが分かるようになるかもしれない。
- ・そのためにも、支援を受けた人の声を聞いてもらうと良い。
- ・知的障害、情緒障害の人には、こういう特色があるのでこういう支援ができるということを市民に知ってもらうことで、ボランティアの養成など障害者支援が大きく推進していく。
- ・子どもたちがこのくらいしか見えないということを体験したり、車椅子だとかこういう段差が大変ということを体験できる「ふれあいのひろば（地区社協主催）」などは良い例である。

（事務局）今泉係長

- ・ふれあいのひろばは、地区社協が主催で教育委員会と共催で開催している。私どもの福祉教育で、車椅子体験、視覚障害者の方のいわゆるガイドヘルパーの役割を子ども達に体験してもらう、高齢者の福祉体験装具（高齢者はこんなに腰が曲がっているなど）の3つをやらせてもらっている。

塩崎会長

- ・「ふれあいのひろば」は、地区社協が主催で開催しているということですが、関口委員さんどうですか。

関口委員

- ・「ふれあいのひろば」は、みなさんが参加できるように準備している。
- ・社会福祉については、いたれりつくせりと、いろいろな面で行き届いている。
- ・デイサービスに行く人はたくさんいて、1～3級、級によって負担金が違うものの、市が負担しているのだと思うとありがたい。
- ・1年でタクシー券が70枚来るが、使いこなすのが大変であるものの、数多く利用できるのありがたい。

- ・タクシーやバスも利用できるなど社会福祉に関するいろんな事業に予算がついているので、それら事業と地域の自治会活動を連携しながら明るいまちづくりに励んでいる。

塩崎会長

- ・前橋は高齢者にタクシー券を配布するなど他の地域よりすばらしい取り組みをしているところがたくさんある。そういうところは活かして、その他のところで地域や自治会にお世話になれたらありがたいと思う。
- ・例えば、市の方でも承知していると思うが、近くにタクシー会社がないところでは、呼ぶのにもお金がかかるので、なかなか呼べないという課題も出ており、その他にも課題はあると思う。
- ・野中委員さんも介護に関わっていると思うので、それ以外のところでも構わないのでお願いします。

野中委員

- ・社明パレード（No.11）についてですが、大学時代のサークル活動でBBS活動をしていた体験から、大学生とうまく連携しながらできるようになると良いと思う。そうすると、若者からの発信も期待できるようになると思う。
- ・買い物支援等（No.9）で、支援団体が無くなってしまったが、町社協がだいぶ広がったことで、自治会を基盤とした支え合い活動が広がったとのことだが、あちこちできている町社協には温度差がある。
- ・例えば、認知症などで免許をどうするか、免許がないと買い物に行けないなどの場合には、買い物等を支援してくれる団体等があったほうが良いと思う。誰でもが平等に使えるような形で買い物を支援してくれる団体が増えるといいなと思う。

塩崎会長

- ・福祉に関心のある学生が活躍できる場があると、協力してもらえるようになるので、いいかなと思う。
- ・No.17の公民館の自主学習グループの団体数では、公民館の学生の活動が増えてきたと聞いている。新しい自主学習グループが24も結成されたのは大きい。
- ・自主学習グループの団体数は高齢者の方が多いので、コロナになるとその数も少なくなったと思う。その中で、若い人たちの団体が自主学習グループを作ったり、ボランティアを作ったりと公民館の地区ごとに活動が広がっている。このような活動が、「社会を明るくする運動」や「のびゆくこどものつどい」に関われるかもしれないし、いろんな障害者への支援にも関わっていくと良いと思う。
- ・子育てを応援してくれている事業もずいぶんあると思う、今までは公民館にオンラインがなかったが、今年あたりからオンラインができるようになり、オンラインと対面の併用で子育て支援を始めたところがあった。オンライン

だと若いお母さんが参加しやすいと思う。これまでの話を踏まえ、若い人たちをどうするかということについて、竹内委員さんどうですか。

竹内委員

- ・子どもが小さいと外出するのが難しいのでオンラインだと参加しやすい。コロナで生まれた良い傾向だと思っている。
- ・ファミリーサポートセンター提供会員数（No.13）で、提供会員は300人程度いるが、実際に活動している会員は30人程度とある。いかに今いる会員をアクティブに動かしていくのをバックアップするかが一番近道なのではないかと思う。
- ・また、今後の取組方針で原因究明のための調査を行いとあるが、結果を見て新しい会員を獲得すると同時並行で今いる会員をアクティブにしていく取り組みをしていただけたらと思う。

塩崎会長

- ・サポートする人が少なくなったから悪くなったのではないという意見だった。数字が下がったからダメなんだではなく、「中身の問題」、「どれくらい役立っているのか」の問題かもしれない。そういう見方で、またアンケートの結果も活用していくのが良いのかもしれない。
- ・全体の中で職務代理の鳥島委員さんの意見をいただければと思う。

鳥島委員

- ・全体で見ると、急いでやるべきものとゆっくり取り組むもので分けられると思う。
- ・No.9の買い物の関係だが、江木団地の市営住宅では、70歳以上のひとり暮らしが多く、5階建てだがエレベーターがない。民生委員をやっていると、足をくじいたりして買い物に行けないという話を聞いているので、急いでやるべきものと思う。江木駅から「とりせん」までの間をコミュニティーバスが試運転したが、その後どうなったか分からないが消えてしまった。
- ・No.13を見ると、どこの学校のサポート会議に出ても家庭的な問題が出てきている。その辺も急いでやるべきものかと思っている。
- ・全体的に右肩下がりの推進指標については、どう差別化するか、どれを優先度をもってやるかなど市の方で検討してもらえるとより効率的にできるのではないかと思う。

塩崎会長

- ・緊急性が高いものと、時間がかかっても確実に効果を上げていくものがあるのだと思う。
- ・右肩下がりの推進指標については、大事なところなので、どう対応したらよいかを担当課と相談して進めてもらえればと思う。
- ・まだ言い足りなかったという委員さんはいるか。

廣瀬委員

- ・福祉のまちづくりとなると、行政関係とボランティア（奉仕）の両立だと思う。
- ・表を見ていると、コロナで実績が下がっているのか、ボランティアを希望する若者が少なくなっていることから下がっているのかが分からない。もし、若者を育てないと後が続かないということだとすると、前橋市のボランティアはどのような状況なのか、把握している中で教えてほしい。

(事務局) 細井副参事

- ・ボランティアとして活動する団体のひとつである NPO を支援する窓口として生活課が登録団体を受け付け市民活動の支援に取り組んでおり、登録団体の数は伸びていないと聞いている。最近では、これまでの NPO 団体には無かった学生たちが活動する団体が見られるようになってきた。例えば、街中に学生の団体が事務所を構え、活動するようなことは今まではなかった。このことから、世代が若返るような形で団体活動が生まれてきていると感じている。
- ・委員さんの意見をいただいている中で、計画にもあるが、それぞれの委員さんの取り組みと合わせて、ボランティア、学生、行政、社協、様々な団体とのつながり、支え合いが大切であると感じた。何でも行政にお任せするのではなく、関係する団体等との横をつなぎながら進めていくのが必要であり、後期計画は「それを目指していきましょう。」を目標としている。このことから、みなさんのご意見をいただきながら、関係づくりの一步を、横ぐしを刺しながら進めていきたいと改めて感じた。庁内においても、関係課が多いが、みなさんからの意見をつなげ横ぐしを刺せるようにしていきたいと思う。

塩崎会長

- ・対面でいろんな意見が出ると、一人では考えていなかったこともそうだよなと思いついたり、もっとこういったほうが良いという意見も出たりと感じられ、みなさんの意見をいただくことができた貴重な機会となった。
- ・前期計画の理念「ひとりより、ふたりより、つながってしあわせ まえばし」のとおり 1 人とか 2 人もいいが、もっとつながるとよりよい前橋になると思う。
- ・支え合い、助け合いがたくさん出てくるが、支えよう助けよう人間が思うのはなぜかと考えると、自分が支えてもらった経験や助けてもらった経験がありがたかったから、じゃあ今度は自分が支えようと思うのではないか。
- ・手をつなぐ育成会の事務局の方は重度のお子さんをお持ちの方で、小中学校の時はかなり大変で周りの方に支えてもらったので、自分の子どもが作業所に行くようになった時間を使って、他の方（障害のある方やその保護者）のために頑張ろうと来てくれている。
- ・「支え合いましょう、助けあいましょう」と言っているだけではなく、助けてもらった、支えてもらったという経験を次につなげていくような社会になる

と、より支えたいという人が増えるのかなと思う。事業を見直す時に、「何がなんでもみんな支えなさい。」と言ってもそうはうまくいかなくて、支えてもらえて良かったという体験を市民がたくさんできるようになるといいなと思う。誰かのために役立ったという経験が自己存在感や肯定感につながっていくので、役立つ場ができる社会がより良くなるのかなと思いながら、みなさんの意見を聞いていた。

【その他、次回スケジュールについて】

(事務局) 細井副参事

- ・ 言い足りない意見等もあると思うので、忌憚ない意見を3月20日までに用紙にご記入ください。
- ・ 本分科会は年1回の開催となるが、みなさんからの意見を反映し、その結果をどの事業に繋げるか、反映したかを説明できるよう各担当課に調整、対応を依頼していくこととする。それらを整えて、今年の10月頃には開催していきたいと考えている。詳細については後日、決定次第、ご連絡します。

(事務局) 小坂部長

- ・ たくさん意見をいただきありがとうございました。
- ・ 私が福祉部長として着任して見たら、地域福祉計画は作っているが何も報告していないという状況だった。「高齢者」と「児童」の計画は報告しているが、「障害」も報告していなかった。「障害」については、来年度に計画をつくるので、それ以降は毎年毎年報告させていただいて委員さんからご意見をいただくのが大事だと思うので、そういう形で進めていきたいと考えている。その際も、いろいろとご意見をいただけたらありがたい。

塩崎会長

議事を終了します。

(以上)